

第5章 骨格景観の景観形成方針

第5章 骨格景観の景観形成方針

本市の個性ある景観形成を進めるためには、地形的な特徴や「集まる」、「生活する」、「憩う」、「移動する」といった市民の活動を踏まえ、景観の構造を浮き彫りにしていくことが求められます。

また、こうした景観の構造は、下関らしさを際立たせる個性豊かな骨格として捉えることができます。

ここでは、市全体の景観イメージを印象づけ、特徴ある景観まちづくりを進めていく上で、大きな要素となる「ゾーン」、「軸」、「拠点」の景観構造を明らかにするとともに、これらに対応した景観形成の方針を設定します。

5 - 1 骨格景観の設定

本市の景観特性に対応した下関市“らしさ”を創り出すため、地形的・面的なまとまりとしての「ゾーン」、市全体を貫き連続性のある特徴的な景観として個性を際立たせる「軸」、都市活動や地域の中心機能を有する地区、または自然的・歴史的景観資源等の集積に特徴がある地区としての「拠点」を次のように設定し、これらの骨格景観に沿った景観形成を進めます。

表 5-1 下関市の骨格景観

	ゾーン (地形的・面的まとまり)	軸 (景観の連続性)	拠点 (中心機能・特徴ある地区)
日本海エリア (連続した海岸線を基軸とした日本海沿いのエリア)	沿岸丘陵地ゾーン 盆地ゾーン	関門海峡軸・海岸軸	自然・観光拠点 (川棚・角島) 生活拠点 (滝部) 都市拠点 (豊浦)
瀬戸内・日本海エリア (瀬戸内海と日本海2つの海に囲まれ、都市としての社会的まとまりのあるエリア)	市街地ゾーン	河川軸 山並み軸	都市拠点 (下関～唐戸) 都市拠点 (新下関) 歴史拠点 (長府など)
内陸・山間エリア (内陸の台地や山間地域を中心としたエリア)	盆地ゾーン		生活拠点 (菊川・豊田) 自然・観光拠点 (豊田湖)

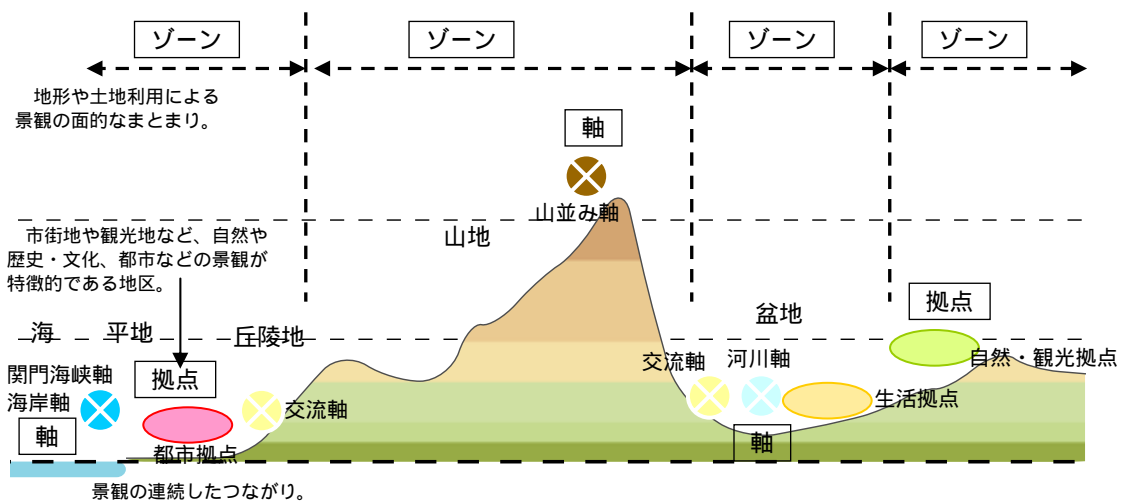


図 5-1 骨格景観の断面的イメージ

(1) ゾーンの特徴

市街地ゾーン

日本海・瀬戸内海に面した平地丘陵地の幹線道路沿いを中心に発達した市街地ゾーンです。特に関門海峡に面した中心市街地は、市の商業・業務、交流の拠点として高次都市機能が集積するとともに、数々の歴史の舞台に登場した厚みのある歴史を有しています。

また、豊浦の市街地は国道191号沿いのJR川棚温泉駅を中心に形成されており、沿道には商業施設が多数立地しています。



図 5-2 中心市街地



図 5-3 JR 川棚温泉駅
(出典：ふるさとのまちムラ百景/
下関市地域づくり推進実行委員会)

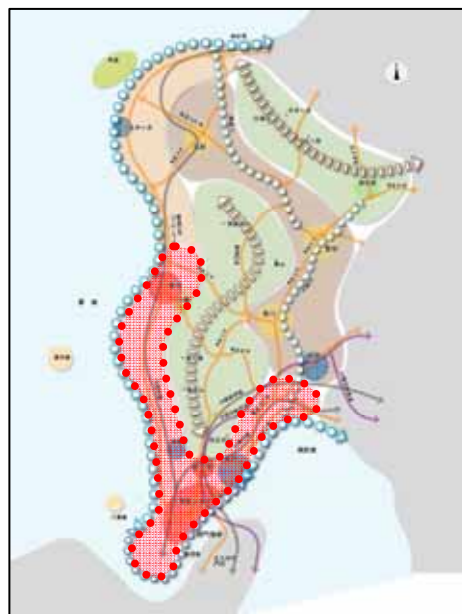


図 5-4 市街地ゾーン

沿岸丘陵地ゾーン

伝統的な漁港・漁村の風景や弥生時代の遺跡等が多く点在するなど、日本海沿岸部から集落社会が形成されたことを今に伝える海との関わりが深いゾーンです。

また、西長門ブルーラインと呼ばれる美しい自然海岸が連続しており、本市を代表するドライブルートになっています。



図 5-5 土井ヶ浜人類学ミュージアム



図 5-6 豊北二見漁港

(出典：ふるさとのまちムラ百景/
下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-7 沿岸丘陵地ゾーン

盆地ゾーン

菊川から豊田にかけての内陸部においては、栗野川、木屋川沿いを中心に平地・盆地が広がっており、ここに古くからの集落が形成されています。また、その周辺には肥沃な農地や緑豊かな山林が広がっています。



図 5-8 小日本菊川の盆地
(出典:ふるさとのまちムラ 100景/下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-9 西市の街並み
(出典:ふるさとのまちムラ 100景/下関市地域づくり推進実行委員会)

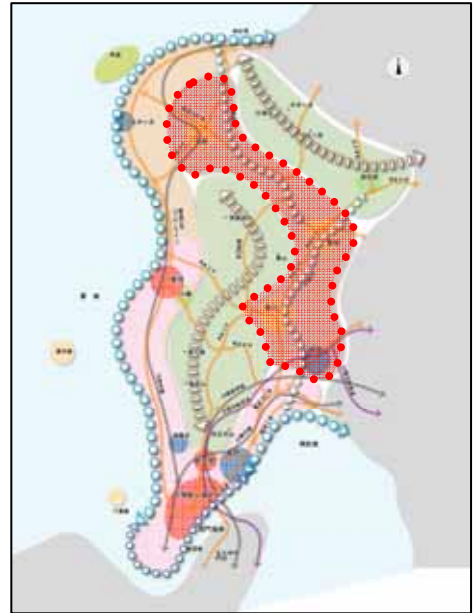


図 5-10 盆地ゾーン

自然緑地ゾーン

市の北部、中央部の骨格を形成している山並みを中心に、その裾野には、美しい田園景観や集落景観が広がり、これらが生活の背景となっています。

また、深坂自然の森や豊田湖畔公園等が市民の憩いやふれあいの場を提供しています。



図 5-11 深坂自然の森
(出典:ふるさとのまちムラ 100景/下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-12 豊田湖ワカサギ釣り
(出典:ふるさとのまちムラ 100景/下関市地域づくり推進実行委員会)

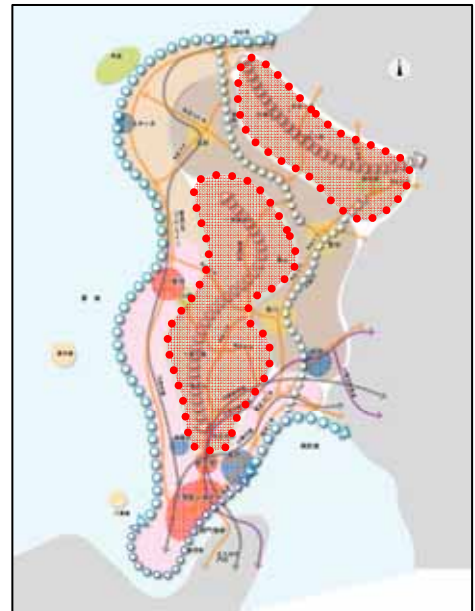


図 5-13 自然緑地ゾーン

(2) 軸の特徴

関門海峡軸

関門景観とは、関門海峡並びにそれに面した地域における山並み等の自然環境、歴史や文化が薫る街並み及び人々の活動により構成される景観の総称であり、関門海峡軸とは、この関門景観の骨格を支える水際とそれに続く水辺の創り出す景観軸です。



図 5-14 ダイナミックな関門景観
(出典:ふるさとのまちムラ100景/
下関市地域づくり推進実行委員会)

図 5-15 水際のボードウォーク

図 5-16 関門海峡軸



図 5-17 みもすそ川公園

図5-18 あるかぼーと錨のオブジェ
(出典:ふるさとのまちムラ100景/
下関市地域づくり推進実行委員会)

図 5-19 関門海峡の夜景

海岸軸

日本海、瀬戸内海に囲まれた海岸線は、瀬戸内海側では遠浅海岸で、一方日本海側は、入り組んだ地形で水産資源や観光資源に富んでいます。

また、日本海側の国道191号は、通称西長門ブルーラインと呼ばれ、日本海の荒波によって浸食された海岸線一帯は、雄大な奇岩断崖の連続で、その見事な造形美は北浦の海上アルプスとして知られています。

また、海岸線沿いにはコバルトブルーの海や美しい夕日を楽しめるポイントが点在し、多彩な自然景観を有している景観軸です。



図 5-25 海岸軸



図 5-20 毘沙の鼻からの眺望
(出典:ふるさとのまちムラ100景/
下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-21 大浦岳からみた響灘
(出典:ふるさとのまちムラ100景/
下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-22 西長門ブルーライン(国道191号)



図 5-23 福德稲荷神社からの眺望



図 5-24 彦島ナイスビューパークからの眺望
(出典:ふるさとのまちムラ100景/
下関市地域づくり推進実行委員会)

河川軸

瀬戸内海に注ぐ木屋川と日本海に注ぐ粟野川は、かつては重要な舟運として、また、川筋を走る街道は交易路として、古くから人々の生活と深い関わりを持っており、川沿いには、多数の集落や肥沃な田園地帯が広がっています。

また、上流部にはホタルが生息するなど豊かな自然を残しており、木屋川のホタル舟や粟野川の青海苔・しろうお漁などは季節の風物詩ともなっています。地域の人々の営みと大変関わりの深い潤いのある水辺の景観軸です。



図 5-26 粟野川の青海苔とり

(出典：ふるさとのまちムラ 100 景 / 下関市地域づくり推進実行委員会)

図 5-27 木屋川のホタル舟

(出典：ふるさとのまちムラ 100 景 / 下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-28 河川軸

山並み軸

市の北部に位置する白滝山系と中央部に位置する竜王山系の山並みが、市街地や集落の背景として、街並みに落ち着きや潤いを与えています。



図 5-29 華山

(出典：ふるさとのまちムラ 100 景 / 下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-30 白滝山

(出典：ふるさとのまちムラ 100 景 / 下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-31 狗留孫山

(出典：ふるさとのまちムラ 100 景 / 下関市地域づくり推進実行委員会)



図 5-32 竜王山



図 5-34 山並み軸



図 5-33 鬼ヶ城山

交流軸（幹線道路等）

響灘の海岸線を走る国道 191 号、関門海峡を臨む国道 9 号を軸として、国道 2 号・491 号や主要地方道沿線地域一体は、本州最西端の道「風波のクロスロード」として、日本風景街道に登録されており、人々の交流軸として、沿道の地域資源を活かした美しく楽しい道づくりに取り組んでいます。



図 5-35 国道 9 号花いっぱい運動



図 5-36 維新海峡ウォーク



図 5-40 交流軸（幹線道路等）



図 5-37 観光列車



図 5-38 豊浦コスモスウォーク



図 5-39 サイクルマラソン

5 - 2 骨格景観の景観形成方針

景観形成の基本方針を踏まえて、景観特性から導かれた下関市の骨格となる景観について、次のとおり骨格別の景観形成方針を設定します。なお、ここでは、景観としての連続性やまとまりから、全市的な方針を必要とする、ゾーン、軸についての景観形成方針を下図に示します。（拠点については、地域別の景観形成方針図に示します。）

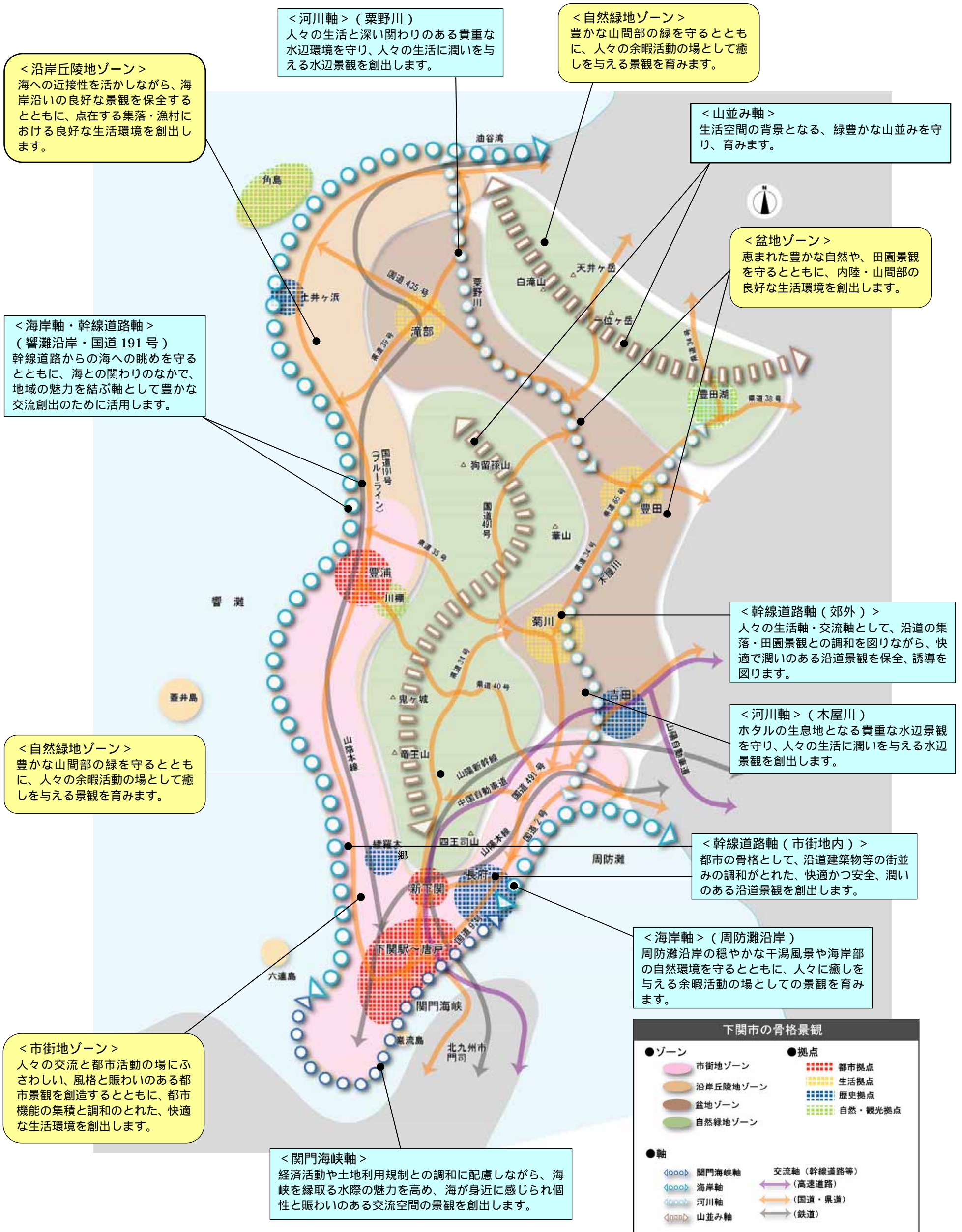


図 5-41 骨格景観の景観形成方針図